

センシング先端技術動向調査報告会

ー平成22年度「センシング技術専門委員会」活動成果報告ー

- 主 催：センシング技術専門委員会
- 担当部署：知的基盤部
- 参加者数：約70名

概 要

センシング技術専門委員会（委員長：安藤繁氏 東京大学）では、情報社会の基盤となるセンシング技術の先端動向調査を実施し、今後の研究開発の方向づけを行うとともに、国内の関連市場発展のため、見識ある提言を行うことを目的に活動を進めています。

委員会では、調査活動の一環として、毎年傘下の分科会による調査研究の成果を公開形式で広く公表し、報告してきました。本年も昨年1年間に実施した「次世代センシングソリューション技術」「マルチモーダルセンサ・デバイス技術」「センシング技術実用化ロード

マップ」の各分科会で行った調査内容を報告するため「センシング先端技術動向調査報告会」を企画いたしました。今回の報告会では、特別講演としてチーム「はやぶさ」のメンバーとして、ターゲットマーカなどの航法誘導系開発に携わった NEC 航空宇宙システムの小笠原雅弘氏に「もう一度、エンジンに灯をともしよう」と題して、ご講演いただきました。

報告会は、センシング技術専門委員会幹事の肥塚哲男氏（(株)富士通研究所）の司会・進行により、安藤委員長の開会挨拶の後、以下の内容で進められました。

プログラム

○「次世代センシングソリューション技術」

本多 敏 氏（慶応義塾大学／次世代センシングソリューション技術分科会委員長）

○「マルチモーダルセンサ・デバイス技術」

澤田和明 氏（豊橋技術科学大学／マルチモーダルセンサ・デバイス技術分科会委員長）

○「センシング技術実用化ロードマップ調査」

中本高道 氏（東京工業大学／センシング技術実用化ロードマップ調査分科会委員長）

○特別講演「もう一度、エンジンに灯をともしよう “はやぶさ” が教えてくれたこと」

小笠原雅弘 氏（日本電気航空宇宙システム(株)）



安藤委員長



小笠原雅弘 氏
（日本電気航空宇宙システム(株)）



会場風景